

交流集会

「家で過ごしたい」をどう支えるか

日時：2009年1月17日(土) 13時半—17時半

於：長岡市医師会館(寺島町) 定員100名(先着順) 参加無料(資料代¥500)

プログラム

開会の辞 田村 正人(長岡西病院院長)
ご挨拶 長村 文夫(日本ホスピス緩和ケア研究振興財団事務局長)

第一部：13時40分—14時25分 【座長：藤原 正博(長岡赤十字病院)】

基調講演 「今、診療所でできること」

伊藤 真美 (花の谷クリニック院長)

伊藤先生は千葉県南房総市千倉町で緩和ケア有床診療所を99年4月に開設され、実践を重ねておられます(参照：土本亜理子著 『ふつうの生、ふつうの死—緩和ケア病棟「花の谷」の人びと』：文春文庫)。近著には『生きるための緩和医療—有床診療所からのメッセージ(医学書院)』があります。

第二部：14時30分—17時25分

ラウンドテーブルディスカッション：長岡はどうする？



◇プレゼンテーション 14時30分—15時15分【座長：富所 隆(中央病院)】

『家に帰りたいけれど。。。：ビハラー病棟の事例から』

多賀 裕美／糸生富美子／近藤智秋／多田洋子／森田敬史／的場和子 (ビハラー病棟スタッフ)
関 一二 他 (ビハラー病棟遺族)

◇総合討論 15時30分—17時25分

司会進行：小幡光子(三重大学医学部看護学科)・飯利孝雄(立川総合病院)

▼指定発言

- | | | |
|--------------------|---|-----------------|
| 1. 地域ケアマネジメントの立場から | ： | 小坂井 保子(介護支援専門員) |
| 2. 訪問看護ステーションの立場から | ： | 林 八重子(中央病院訪看St) |
| 3. がん拠点病院での取り組み | ： | 藤原 正博(長岡赤十字病院) |
| 4. 地域連携室の役割と機能 | ： | 数藤 武彦(長岡西病院MSW) |
| 5. 長岡市医師会の取り組み | ： | 大貫 啓三(長岡医師会会長) |

▼自由討論(フロアからの質疑応答 他)

閉会の辞 大貫 啓三(長岡市医師会会長)

★参加ご希望の方は：①氏名②連絡先③所属／職業を明記のうえ、
0258-27-8509 (FAX) / nagaokanishi-hp@sutokukai.or.jp (E-mail) のどちらかでお申し込みください。定員に達した時点で締め切らせていただきます。

お問い合わせ：長岡西病院 0258-27-8500 (セミナー担当係：月-金 AM)